

～目次～

【1】TKK活動

【2】関連団体の活動

【3】行政等の活動

【4】新コーナー「行ってきました、聞いてきました！」

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 —

— < >のカッコは、連続ものを指します—

【1】TKK活動

* *

<高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会>

2017年度は5,11月の2回開催。2回分一括先行申し込みは終了。第1回目の5月14日アプローチ講習会の受講者を募集しています。まだ残席がありますので、受講をご希望の方は tkkapproach@gmail.com にお申込みください。

詳細、お申し込みはこちらから

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=178

<医療及び家族相談会>

ご相談は各回とも先着順で1回に3組まで、1組につき1時間を目途として順次、ご相談に応じます。今年度は、6月25日(日)からです。

詳細、お申し込みはこちらから

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardCode=FB20_1198201667&boardAct=view&crtPage=1&readNum=177&replyNo=141

○TKK発足15周年・NPO法人設立10周年「記念講演会」

安心な未来をめざして!! 高次脳機能障害の啓発と支援

8月27日(日) 12:00～17:40 浜離宮朝日ホール(400人) 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2階
参加費(資料代): 1人(または、当事者と付添いの方1人の1組) 1,000円 お申込み受付開始は、6月27日(火)から。

・記念講演 [突然 妻が倒れたら] ～家族の視点から語る介護生活と社会の支え方～

講師: 松本 方哉(まつもと まさや)氏(フジテレビの解説委員・キャスター、国際ジャーナリスト)

～フジテレビ報道番組「ニュース JAPAN」で、滝川クリステル氏と共にキャスターとして活躍していた当時、奥様がクモ膜下出血で倒られました。重い高次脳機能障害を負われた奥様の介護やリハビリ・ご自身の仕事・ご子息の養育を通じて体験された医療・福祉・介護制度などの問題点を「家族の立場から」鋭く語っていただきます。

◇ 詳細、お申し込みはこちらから、

○2017(平成29)年度 TKK 第1回理事会・総会 6月18日(日)午後開催予定。

【2】関連団体の活動

* *

●春の音コンサートX 主催:世田谷高次脳機能障害連絡協議会 1月22日(日)午後、玉川区民会館

<http://kouji-kazokukai.org/bbs>

==== 高次脳機能障害者の当事者の方々が「主役になれる場」を、と2008年から開催してきたこのコンサートも、今年で10周年となりました。毎年舞台の上で輝いている出演者から、私たちがエネルギーを分けてもらっています。今年も歌、群読、ピアノ、バイオリン、詩の朗読、DJ SHOW、バンドを交えてのMUSIC LIVEと盛り沢山でした。タイトなスケジュールでドキドキしたのですが、皆さんのご協力で思いのほか時間が余り、最後には、10年連続出演をしたご本人と出演のきっかけとなったバンド仲間、家族、長谷川先生との座談会まで出来、とても熱気を帯びた、そして暖かな充実したコンサートとなりました。

====世田谷高次脳機能障害連絡協議会代表 今井雅子

今井雅子代表はその日コンサートに出演された方を含めた当事者の思い、障害受容について次のように語っています。

2017年2月発行 こーじ通信 NO.88 巻頭 『障害受容』 <http://kouji-kazokukai.org/letter/20170411/542.html>

●第4回 失語症カフェ「ワックル」 主催:(株)言語生活サポートセンター

4月16日(日) 場所:「言語生活サポートセンター」訓練室 東京都杉並区荻窪 5-16-14 カパラビル1階

==== 昨年から各月第3日曜日に開催している失語症カフェ「ワックル」も4回目を迎えました。今回のイベントは「若い失語症のつどい東京版」の紹介をしていただきました。失語症カフェは若年者の率が高いのです。その中、若いつどい東京版の会長が100回の歴史をPPT等で、語ってくださいました。パワーポイントには若い失語症のある方々の笑顔が溢れていました。その後は、自己紹介、話ができる方も、難しい方も何かしら一言。前回までは、参加者を制限しなかったため、言語生活サポートセンターの訓練室は身動きも取れないほどになりましたが、申込制30名にした為にスペースもゆっくりと落ち着いた雰囲気でした。当事者が落とす本格的ハンドドリップコーヒーは評判がよく、お替りというお声が沢山あり、裏方は天手古舞です。近日中には若い失語症のある方々に本格的ハンドドリップコーヒー入れ方講習会を開催し、ワックルでその腕を披露していただく予定もあります。ワックルでは失語症のある方の時間がゆっくり流れています。

====言語生活サポートセンター 代表 園田尚美

●講演会「地域で生き生きと暮らすアイデアを学ぼう！」 主催:(株)言語生活サポートセンター

4月23日 場所:荻窪タウンセブン8階会議室

講師: 山本弘子氏 「認知症・高齢者の摂食・嚥下障害とリハビリテーション」

稲川利光氏 「地域でいきいきと暮らすリハビリの心と力」

==== 山本先生の摂食嚥下のお話は、脳卒中の後遺症には必ず付きまとう嚥下障害、すべての人がいつまでも口から食べる幸せを追求しようという講演でした。嚥下障害は食べる力のみならず言葉の発信も困難になることが多く、発

話をあきらめてしまう場合もある。飲み込む力を大事にしましょうという実践付き講演会でした。稲川先生のご講演は笑いあり、涙あり。パワーポイントの中では、脳卒中等で介護が必要となられている多くの当事者の方と介護に携わっているご家族、看護師さん、先生ご自身の実体験を綴ってくださいました。稲川先生の話術に引き込まれ、あっという間の1時間半でした。地域で生き生きと暮らすには、私たちはどのような心構えが必要なのかを改めて考える講演会でした。

====言語生活サポートセンター 代表 園田尚美

○平成 29 年度総会及び講演会「高次脳機能障害と認知症」 主催：高次脳機能障害者と家族の会

5月21日(日)13:30～16:00 13:30～総会 13:45～講演会 エッサム神田ホールにおいて

講師：高橋幸男先生(エスポワール出雲クリニック 院長)

----- 高橋幸男先生の講演、「高次脳機能障害と認知症」について。

よく「認知症と高次脳機能障害は違うんですか？」とか「高次脳機能障害者はいずれ認知症になるんですか？」などという質問を受けます。精神科医である高橋先生は、統合失調症の支援から始まり、認知症デイケアを実践され、その中には高次脳機能障害者もいます。その支援は 40 数年になられます。症状や心理的な理解、その支援の考え方など、優しい視点の中にも長年の実践からの確かな信念は、私たちにも多くのことを教えていただけたと思います。

会員でなくても参加は自由です、是非ご参加ください。 ----- 高次脳機能障害者と家族の会代表 今井雅子

○第 6 回総会・第 10 回講演会「その心に寄り添って」 主催：いちごえ会

5月27日(土)12:00～、小金井萌え木ホール

講師：山口加代子氏 横浜市総合リハビリテーション 臨床心理士

詳細は、<http://ichigoe.org/archives/1771>

申し込みは、<http://ichigoe.org/archives/1771#entry>

○第2回 高次脳機能障害の若者と家族向けの就労勉強会(ハイリハJOB) 主催：ハイリハ東京

6月3日(土)13時～17時、江戸川区東部区民館

勉強会の主なテーマは、①就労している高次脳障害者の体験談

②高次脳の人への就労に詳しい専門家の講演 ③親と当事者に分かれての話合い

○葛飾区「家族相談会」 主催：地域活動支援センター 協力：家族会「かつしか」

今年度から新たに実施、毎月第三木曜日、ウエルピア3階 13時00～

○講演会(演題未定) 主催：かつしか 6月30日18:00～、ウエルピア1階

講師：高田 耕太郎氏(いずみ記念病院リハビリテーション科医師)

— いずみ記念病院は区東北部地域リハビリテーション支援センター病院

【3】行政等の活動

* *

●台東区主催：「高次脳機能障害 講演会」平成29年1月20日午後、台東保健所

==== 講演会のテーマは「診断からリハビリテーションまで」、講師は原 貴敏先生(慈恵医大病院リハ科医師)で

した。高次脳機能障害についての基本的内容について講演がなされました。引き続き、都心障センター高次脳担当の守矢氏の都心障センターが実施している高次脳機能障害事業についての講演があり、その後、相談会が開催され、原 貴敏先生、都心障センター高次脳担当の守矢氏、TKKK から理事長、理事の細見好昭が相談支援員として、講演会に参加の当事者やご家族の様々な相談に対応いたしました。 ===TKK 理事長 細見みゑ

●<港区「高次脳機能障害 研修会」> 主催:港区、受託事業者:TKK、協力:みなと高次脳、港区リーブラホール
第1回目:1月25日(水)、テーマ:「高次脳機能障害者の一人暮らし支援」

=== 高次脳機能障害についての講演は慈恵医大病院リハ科の原 貴敏先生。及び、当事者 Aさんと港区立障害保健福祉センターの支援者四日市氏と石川氏達による事例報告会は生活が自立して就労できるよう自立訓練(機能訓練)することからアパート探しまで、キメの細かい支援の実際で大変好評でした。 ===TKK 理事長 細見みゑ

第2回目:2月1日(水)、テーマ:「高次脳機能障害者の就労支援」

=== 就労についての事例を交えた講演は慈恵医大第三病院リハ科の渡辺 修先生。みなと障害者福祉事業団支援者小嶋氏と、障害者就労を受け入れている沖ワークウエルの支援者武田氏からは就労訓練と就労(復職)した会社の支援の事例報告があった。就労の実態を知る良い機会であり好評であった。 ===TKK 理事長 細見みゑ

●第3回 北多摩南部医療圏 高次脳機能障害地域支援研修会、2月26日(日)、東京慈恵会医科大学医学部大講堂
=== 講演は、テーマが「高次脳機能障害の神経心理学的評価」。講師は、慈恵医大第三病院リハ科 ST の山本一真氏。認知訓練、言語療法、理学療法、作業訓練によって、まさに高次脳機能障害が改善していくことについての神経心理学的評価についての講演であった。また、府中市内の事業所「集いの家」、「コットンハウス・フレンズ」の施設長さん達から、当障害の方々実際に働いている仕事の支援についての詳細説明がなされた。最後は、事例検討報告として、府中心障センター、北原国際病院、地域生活支援センターが連携して、一人の当事者の社会復帰、就労復帰支援報告であった。以上、支援者や専門家にとって中身の濃い非常に役立つ研修内容であったと思います。

===TKK 理事長 細見みゑ

●第20回 東京都 高次脳機能障害者相談支援体制連携調査委委員会 3月22日(水)、都心身障害者福祉センター
☆主な議事内容、

- (1)高次脳機能障害者支援普及事業の平成28年度実施状況報告と、平成29年度実施予定についての発表。
- (2)小児の高次脳機能障害に関する取り組みについて。
- (3)その他として、練馬障害者支援ホーム(29年度からは、東京高次脳機能障害支援ホームに名称を変更)の28年度事業報告と29年度事業予定。

=== 当委員会は、都内の学識経験者、医療・関係団体・精神保健関係・教育関係・福祉関係・区市町村の機関、および当事者団体(TKK)の委員達で構成されている。TKKからは、委員として、理事長の細見みゑ、傍聴人として副理事長の今井雅子と小澤京子が出席。当法人 TKK からは、28年度事業報告と29年度事業予定の発表及びチラシ配布。

☆主に報告したこと、

- ・平成28年度は、専門的リハビリテーション充実事業における高次脳機能障害支援普及事業実施が、12の二次医療圏拠点病院全部に及んだこと。
- ・29年度の高次脳機能障害者支援促進事業を実施する区市町村は、40(ちなみに東京都は23区、26市、5町、8村)に及ぶ予定とのこと。しかし、東京都が予算化している高次脳機能障害者支援普及事業の平成29年度概算は、1億1,000万円弱にすぎない。これが多いか少ないのか、また予算額相当の支援普及事業がなされるか否かを注視し

なくてはならない。特に予算額の大部分を占める区市町村高次脳機能障害者支援促進事業に7,700万円の予算が組まれているが、これらが人件費だけに消費されるのではなく、身近な地域での支援充実に有効に使われることを願うばかりである。

===TKK 理事長 細見みゑ

○＜平成29年度 港区 高次脳機能障害相談会＞

----- TKK が港区から受託している「高次脳機能障害理解促進事業」の中の一つ、相談支援事業です。月1回、第3木曜日が相談日です。平成29年度は4月から毎月開催しています。港区の障害者保健福祉センターの支援者(SW、PSW、PT、OTなど)や、TKK 及びみなと高次脳の家族たちのご相談に応じます。相談会の詳細や申し込み方法については、TKK ホームページの下記サイトをご覧ください。

----- TKK 理事長 細見みゑ

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=176

【4】行ってきました、聞いてきました！

* *

メルマガ編集担当者が加盟団体、関係団体の活動を見学したり、高次脳機能障害関連の催しものに参加した際、その内容、印象をご報告します。

4回目となる今回は、TKK の会員、「ハイリハジュニア」のご紹介です。

<報告者:TKK 理事 伊地山 敏>

『「ハイリハ東京」設立から「ハイリハジュニア」設立の経緯』

言語聴覚士の鈴木勉先生、千葉リハビリテーションセンターの太田令子先生、ハイリハ東京代表の小澤京子さん、(現ハイリハジュニア代表)穴澤芳子さん、(現ハイリハジュニア副代表)畠山恵子さんらが指導的立場で関わり、設立された。ハイリハ東京、ハイリハキッズ(児童)が次々と設立されてきたが、中学、高校、20代~30歳くらいまでの年齢層の高次脳機能障害に対応した組織の設立ニーズと期待が高まる中で、新たに2013年2月からハイリハジュニアがスタート。

『ハイリハジュニアの概要』

会員構成は22家族。活動状況として、定例会は6回/年、2月に当事者と家族の合同会議、12月にクリスマス会を開催。外出活動4回/年が実施されている。その他に、親御さんだけのランチが2回/年行われている。

『2月12日の定例会(当事者と家族の合同会議)の様子』

総合司会に代表穴澤芳子さん。太田令子先生の司会で、スライド画面を使った1年間の振り返りがあり、画面に登場する当事者やイベント、外出先での活動状況などを、当事者の記憶を呼び覚ますように、先生と当事者たちの掛け合いで進んだ。その後、当事者たちは活動計画の打ち合わせに、そして、親御さんたちは情報交換と懇親のため、別室に向かい、それぞれの会議を行った。

☆当事者たちの話し合い:太田令子先生が進行役。言語聴覚士の西脇葉子さんが書記を、副代表の山口英幸さんがスライド担当で、進行。1年の活動計画は「どこに行きたいか?」。皆で話し合いながら決めていく。太田先生が、当事者の皆さんにLINEで事前に宿題として出していたので、よく考えてくれており、会はスムーズに進む。

☆別室で、お母さん達10人の懇談会:自己紹介では、各自の高次脳機能障害当事者の年齢・性別・発症後の経過、現在の状況、暮らしぶり、特に生育途上の教育に関するお悩みなどを語り合い、情報交換を熱心にされていた。又、どの親御さんも、学齢期にある当事者のことを思い、国リハ、職リハ、都身障など、将来の進学、リハビリや就労へ向けたテーマへの関心の高さが伺われた。席上、都身障の見学を検討したいとの意見も出された。

☆その後、親子合同で会議:当事者、親、それぞれに案を出して貰い、討議した。

* 2017年1月号から太田令子先生が連載執筆中の月刊誌「地域リハビリテーション」についても情報交換があった。太田先生の連載主題は、高次脳機能障害児を地域で育む。副題は高次脳機能障害児のすこやかな未来づくりを願って。

「ハイリハジュニア代表 穴澤芳子さんから一言」

ハイリハジュニアは中学生から大学生の高次脳機能障害を持った(大学卒業した当事者・就労移行支援・就労した方も含みます。)青年の家族会です。顧問は臨床心理士の太田令子先生。支援スタッフはST 鈴木勉先生、千葉県リハビリテーションセンター臨床心理士の大塚恵美子先生、ST 廣瀬綾奈先生、特別支援学校教員、ボランティアさんなどと頼もしい方々が、外出活動を当事者と一緒に楽しんで支援をいただいています。定例会は、偶数月で年に6回ほどあり、主に外出活動中心に当事者と交流をしています。また年に2回ほどマザーズランチ会を開き、当事者の親同士の情報共有を行っています。思春期真っ盛りの当事者達は、仲間との交流を楽しみ、特にガールズトークが盛んな様子が伺えます。そして当事者の保護者がとても協力的であることが素晴らしいんです。今後も、活発な活動を行っていくと思いますので、他家族会の方もお時間がつくようでしたら遊びにいらしてください。

活動の詳細は、HPをご覧ください。

<http://hirehajr.wixsite.com/homepage>

『キッズネットワーク 全国イベント』開催のご案内

- ・全国の小児高次脳機能障害家族たちが年に一度、集まりイベントを楽しみます。
- ・ジュニアにも参加して貰います。

日にち：9/16~17日 1泊2日

場所：東京オリンピックセンター

テーマ：「あなたは誰を支えていますか？」

その他：イベント計画中。

以上